

## 本提言書の扱う課題意識

- (1) これまでも多くのベンチャー、スタートアップがこの茨城県から生まれてきたが、その内、**成長企業の多くが比較的早期の段階で県外移転を選択**。
- (2) スタートアップが生まれるシーズは未だ多くあり、創業そのものについての環境整備は進んできたものの、未だスタートアップが**成長しやすい環境は整っていない**。
- (3) 起業そのものには価値はなく、**スタートアップが「成長」してはじめて、社会に対して良いインパクト**を与え、茨城におけるスタートアップのエコシステムが回り始める。

## 本提言のこだわりと目指す未来

- 総花的にならず、過保護でもなく、行政にしかできない政策で、かつエッジが効いていて、本質的な効果のある政策、そして、今の茨城において、スタートアップの成長に必要な政策を4領域、6政策にフォーカスしてまとめた。
- これが実現すれば、茨城県は「日本で一番スタートアップが成長しやすい県」に限りなく近づき、それは知事が提唱する「日本で一番起業しやすい県」を包摂し、本県から世界に向けた新しい価値創造が爆発的に増えていく端緒になる。

スタートアップが成長するために必要な要素すべてに通じる3つの「ヒト」とその「ヒト」が集い、つながる「場」の4軸にフォーカスした6つの政策提言

### 透明性と独立性の高い エンジェルファンドの設立

- 起業する人を増やすためには、創業前後に数百万規模のエンジェル投資が重要。
- 経験のない民間に先んじて、**公共的側面からリスクを負える県が、意思決定の速いエンジェルファンドを設立し**、初期の成長原資を供給する最低限の環境を整える。

起業する「ヒト」

### 高度人材採用の起点としての サテライトオフィス

- 初期のスタートアップの成長に不可欠なのがコアとなりうる人材の採用だが、**東京方面からの採用にあたっては移住が大きなハードル**。
- 東京にサテライトがあれば、採用がしやすくなる。そこで、**資金的に難しいスタートアップに代わり、県がインキュベーション施設の一角などを借り上げる形で整備**。

働く「ヒト」

### 人材マッチングのリスクを減らす 「大人のインターン」助成

- 茨城県から東京方面へ通勤する人口は近年特に増加していて、そのような人材が、**県内のコワーキングスペースに集まりつつある**。
- そのような人材へのアクセスを促進し、**かつマッチングリスクを減らすために、副業ないしプロボノとしての関与を推奨、助成制度を整備する**。

### 県内のスタートアップと支援者を 透明化するデータベース助成

- 県内のスタートアップ、メンター人材や投資家などの情報は、各公的支援機関に分散するか、もしくは表に出していないことが多い。
- **各公的支援機関が県内スタートアップの情報を収集し、全国的なデータベースサービスに登録、随時更新する費用を県が補助する制度を整備**。

支援する「ヒト」

### 重点支援エリアをフォーカスしたインキュベーション施設の支援制度

- 上記3つの「ヒト」が揃っても、交流し、つながる「場」がなければ、コミュニティとしては弱く、「場」が分散してもやはりスタートアップの成長は加速しない。
- 県内のコワーキング・シェアオフィス、インキュベーション施設等に対して**重点支援するエリアを県内数カ所に限定し、集積を促進**。

### 創業一周年記念お祝い金

- スタートアップが1年を超えて存続することは、一定の成長性と可能性を示すことができなければ達成できない。
- 創業一周年を迎えたスタートアップに記念イベントを開催する費用の補助を行うことによって、**地域とスタートアップの繋がりを強め、「ヒト」を呼ぶ良いきっかけとする**。

ヒトをつなげ、支える「場」